

付属資料(まちづくり)【本編】

内 容

- ①浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン(平成29年度)の概要について
- ②浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの取組状況について
- ③浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの達成状況・成果について
- ④浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン(43方策)の評価について
- ⑤浦和美園～岩槻地域の現状と課題について
- ⑥浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの見直しについて
- ⑦行動計画に位置付けられた実践方策の概要について
- ⑧中間駅周辺地区のまちづくり選定案について
- ⑨さいたま市東部地域のまちづくり行程イメージについて
- ⑩浦和美園駅及び岩槻駅周辺地区の将来イメージについて
- ⑪浦和美園駅及び岩槻駅周辺地区のまちづくりの目標について
- ⑫交流人口の設定について
- ⑬浦和美園～岩槻駅周辺地域の沿線開発による定住人口設定について

①浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン(平成29年度)の概要について

浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン[43の方策]

浦和美園駅周辺地区

地区の目指す方向性
「スポーツ、健康+環境・エネルギー」のブランド化を図る

主な
方策内容

- 1 ブランドイメージ戦略
- 2 施設誘致・整備
- 3 土地利用促進方策の推進
- 4 浦和美園駅周辺 土地区画整理事業の推進
- 5 憩い空間の創出
- 6 観光機能の強化
- 7 イベント開催、誘致
- 8 パークアンドライドの検討
- 9 バス路線の変更
- 10 アーバンデザインセンターみその整備事業
- 11 みその都市デザイン協議会
- 12 超小型モビリティの導入促進
- 13 スマートホーム・コミュニティの普及
- 14 埼玉スタジアム駅設置に合わせたまちづくり方策の検討
- 15 国際スポーツタウン構想の推進

2 施設誘致・整備



商業施設 (イメージ) 医療施設 (イメージ)

定住・交流人口に寄与する商業施設・医療施設等の誘致に取り組んでいます。

5 憩い空間の創出



街区公園 調節池遊歩道

土地区画整理事業による公園等の整備を進めウイングシティの憩い空間を創出します。

10 アーバンデザインセンターみその整備事業



施設内の様子 まちづくりについてのアンケート

平成27年10月「公民+学」が連携してまちづくりを進める「アーバンデザインセンターみそ」が開所しました。今後、地域課題に対応したまちづくりを進めます。

4 浦和美園駅周辺 土地区画整理事業の推進



浦和美園駅周辺

大規模な土地区画整理事業(6地区)の推進とあわせ、土地利用の促進や地区の魅力向上に向けた様々な取組を推進しています。

7 イベント開催、誘致



少年サッカーの練習 浦和美園まつり&花火大会

埼玉スタジアム2002等の地域資源を活かし、イベントの開催、誘致を行います。

12 超小型モビリティの導入促進 13 スマートホーム・コミュニティの普及



ホンダ超小型モビリティ「MC-β」 スマートホーム・コミュニティ

低炭素で暮らしやすいまちづくりに取り組み、「スマートホーム・コミュニティ」の整備や超小型モビリティの普及などを進めています。

岩槻駅周辺地区

地区の目指す方向性
歴史・文化で観光機能の強化を図る

主な
方策内容

- 16 岩槻まちづくりアクションプランの推進
- 17 観光施策の推進体制の強化
- 18 人形文化・観光機能拠点の整備
- 19 岩槻駅西口土地区画整理事業の促進
- 20 岩槻駅周辺環境整備
- 21 歴史・文化にちなんだイベントの開催
- 22 観光機能の強化

16 岩槻まちづくりアクションプランの推進



にぎわいの波及 (イメージ)

「城下町の歴史・文化が息づくふれあいのまち」を目指し、旧岩槻区役所の敷地利用と連携しながら周辺整備も推進しています。

19 岩槻駅西口土地区画整理事業の促進 20 岩槻駅周辺環境整備



岩槻駅西口土地区画整理事業 岩槻駅舎(西口)完成イメージ

岩槻駅西口の開設と合わせ土地区画整理事業により、駅前広場等の整備を行います。

21 歴史・文化にちなんだイベントの開催



岩槻鷹狩り行列 まちかど鑑めぐり

「歴史・文化のまち」として様々なイベントが開催されます。毎年11月に行われる「城下町岩槻鷹狩り行列」は徳川家康が鷹狩りをした様子を再現したイベントです。

中間駅周辺地区

地区の目指す方向性
地域資源の活用を図る
(自然・農業、目白大学)

主な
方策内容

- 23 目白大学、目白クリニックとの連携
- 24 農業交流
- 25 施設誘致・整備
- 26 イベントの開催、誘致
- 27 新駅設置に合わせたまちづくり方策の検討

23 目白大学、目白クリニックとの連携



目白大学岩槻キャンパス 目白大学耳科学研究所クリニック

地域と大学が連携し、各種公開講座を開催しています。

24 農業交流 26 イベントの開催、誘致



コスモスまつり さいたまマーチ

地域資源や自然を活かし、地域交流創出のためのイベント等を開催しています。

延伸線全体

- 28 施設誘致、整備 施設の立地を想定した開発可能性の検討
- 29 イベントの開催、誘致
- 30 観光機能の強化
- 31 見沼田圃を活用した交流
- 32 浦和美園から岩槻までの快速バス運行
- 33 移動方策(バスなど)の充実
- 34 自転車ネットワークの検討
- 35 埼玉高速鉄道線沿線活性化、交流促進
- 36 地域の情報発信・PR

市民組織

- 37 地下鉄7号線延伸事業化推進期成会
- 資金調達
- 38 延伸線整備基金
- 鉄道関係方策
- 39 地下鉄7号線延伸整備調査
- 40 地下鉄7号線延伸運営調査
- 方策のマネジメント
- 41 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議
- 42 浦和美園～岩槻地域移動実態調査
- 43 7号地域成長・延伸実現マネジメント会議

②浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの取組状況について

1. 浦和美園駅周辺地区



①都市基盤整備の進捗



複合公共施設(コミュニティセンター、図書館、支所等)
(H28.1完成)



銀行
(H29.11完成)

②生活必要施設の一定程度の整備



ホームセンター(H25.12開業)



商業施設(H29.3開業)



郵便局(H29.2開業)



認可保育所(6箇所開設)

③医療施設の誘致を推進中



医療施設(イメージ)

④民間・市民団体等の取組



浦和美園まつり&花火大会(10月)



都市デザイン協議会

2. 岩槻駅周辺地区



①岩槻駅舎完成



岩槻駅舎(H29.3完成)

②さいたま市岩槻人形博物館の着工



H31年度末開館予定

③歴史・文化にちなんだイベントの開催



人形のまち岩槻流しびな
(2月)



端午の節句(こいのぼりくぐり体験)
(5月)



重陽の節句(菊人形製作)
(10月)



鷹狩り行列
(11月)

3. 中間駅周辺地区・延伸線全体

①地域資源を活用したイベントの開催



さいたまマーチ
～見沼ツデーウォーク～(3月)



いわつきマルシェ in
目白大学(10月)



南下新井コスモスまつり
(10月)

③浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの達成状況・成果について

地区	目標指標	I 期			II 期			
		基準値 (H23年度)	H25年度 実績	H26年度 実績	H27年度 実績	H28年度 実績	H29年度 目標	
浦和美園 駅周辺	定住人口 ・浦和東部第二地区(H29.2事業完了) ・岩槻南部新和西地区(") ・浦和東部第一地区(施行中) ・大門下野田地区(施行中) ※実績は各年度1月を基準	(単位:人) 8,000 7,000 6,000 5,000 4,000	4,135	4,766 / 5,003	5,100 / 5,566	6,100 / 6,334	7,100 / 7,531	8,100 / 9,654 目標の8.1千人を達成
	商業・業務施設来訪者	—	ホームセンター立地		大型電機店立地	大型電機店立地 大型商業施設立地	約11千人/日超増 H29年10月に商業・業務事業者へ聞き取り調査実施 目標の8千人/日を達成	
	教育施設学生	—	施設誘致推進中				約1千人/日超増	
	交流人口 イベント開催 ・埼玉スタジアム2002公園内及び浦和美園駅周辺 ・フリーマーケット ・埼玉スタジアムグラウンドの利用等	1年間当り 約424千人	約339千人 平均値388千人	約399千人	約432千人	約380千人	年約30千人超増 454千人 差66千人	
	スポーツ開催 ・埼玉スタジアム2002でのレッズ戦(Jリーグ他) (年間20試合)	1試合当り 約29千人	約34千人 平均値36千人	約35千人	約38千人	約37千人	約13千人超増 約42千人 差6千人	
岩槻駅 周辺	交流人口 観光機能拠点 さいたま市岩槻人形博物館(仮称)にぎわい交流館いわつき	—	施設整備中 H29.3実施設計開始				約70千人超増 さいたま市岩槻人形博物館着工(H29.12)	
	イベント開催 ・岩槻まつり ・鷹狩り行列 ・まちかど雑めぐり等	1年間当り 約451千人	約441千人 平均値477千人	約504千人	約492千人	約471千人	約30千人超増 約481千人 差4千人	

④浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン(43方策)の評価について

■浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン43方策の評価について

(第I期)
平成24年度
～
平成26年度

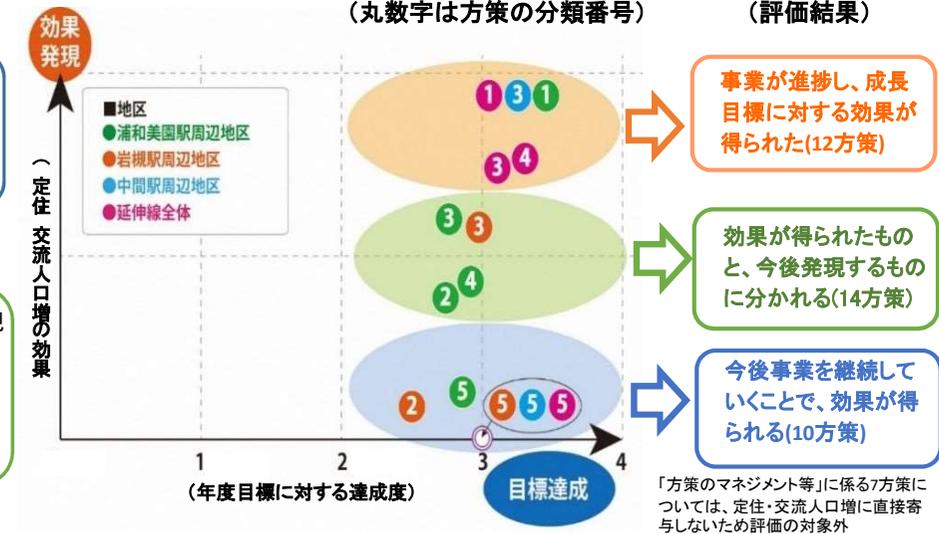
プラン推進の初期であることから、目に見える成果がまだ現れてこなかった。
⇒**基本的にプランを継続**

成長・発展プランの推進

(第II期)
平成27年度
～
平成29年度

事業が進捗し、目に見える効果が現れてきた。
⇒**平成28年度実績(一部平成29年度実績)を基に、43方策の評価を実施し次のステップへ**

■浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン43方策の評価(丸数字は方策の分類番号)



(主な評価結果の分析)

・延伸線全体での地域の情報発信(ウェブ配信)については、タイムリーな更新、改善を行ったこと、定住コンテンツ(住民の生の声)を取り入れたこと等でアクセス数が増加した効果が高かった。(●●●●)

・目白大学の学園祭とコラボした農業イベントや大学の教室を活用した公開講座等により中間駅周辺の交流促進に効果があった。(●)

・各種イベントについては、PR強化等により多くの参加があった。3区連携ふれあいウォーキングでは、ルート変更やおもてなしの充実等、創意工夫を行ったことにより、多くの参加があり交流促進に効果があった。(●)

・美園での土地区画整理事業については、UR施行地区で事業が終了し、定住促進に寄与した。今後は、他地区でも事業を推進し、東京2020大会までに概ね概成する予定である。また、H31年度に小・中学校が開校予定であり更なる定住促進が期待できる。(●)

・「大門宿まつり」や「みそのいち」など地域主体のイベントも新たに開催され、交流促進につながった。(●●)

・岩槻では、イベント内容の改善に努め、また鷹狩り行列と人形供養祭、その他のイベントを同日開催することで相乗効果を図り、多くの来訪者で賑わい、交流促進の効果があった。

一方で、観光機能拠点である人形博物館については、平成31年度末に完成予定であり今後、効果が発現する。(●)

・岩槻駅西口土地区画整理事業整備は、事業推進中であり、今後地権者による土地利用や安心・安全な歩行空間が確保されることで賑わいが創出され効果が発現する。(●)

・今後、美園タウンマネジメント協会やみその都市デザイン協議会等によりまちなみ景観をはじめとするまちづくりが検討され、それが実現することで効果が発現する。(●●●●)

方策の分類

	浦和美園駅周辺地区	岩槻駅周辺地区	中間駅周辺地区	延伸線全体	方策のマネジメント等
地域の情報発信	1 ブランドイメージ戦略			1 36 地域の情報発信・PR	
まちの基盤整備	2 施設誘致・整備 3 土地利用促進方策の推進 4 浦和美園駅周辺 土地区画整理事業の推進 5 憩い空間の創出 13 スマートホーム・コミュニティの普及	2 19 岩槻駅西口土地区画整理事業の促進 20 岩槻駅周辺環境整備			37 地下鉄7号線延伸事業化推進期成会 38 延伸線整備基金
地域資源を活用した交流	6 観光機能の強化(散策ルート、観光マップ、地場産販売、外国人観光客誘致など) 7 イベント開催、誘致(埼玉スタジアム2002活用、スポーツ・健康にちなんだイベントなど)	3 17 観光施策の推進体制の強化 18 人形文化・観光機能拠点の整備 21 歴史・文化にちなんだイベントの開催 22 観光機能の強化	3 23 目白大学、目白クリニックとの連携 24 農業交流 26 イベントの開催、誘致(健康・スポーツにちなんだイベント)	3 29 イベントの開催、誘致 30 観光機能の強化 31 見沼田圃を活用した交流 35 埼玉高速鉄道線沿線活性化、交流促進	39 地下鉄7号線延伸整備調査 40 地下鉄7号線延伸運営調査
地域内移動の確保	4 8 パークアンドライドの検討 9 バス路線の変更 12 超小型モビリティの導入促進			4 32 浦和美園から岩槻までの快速バス運行 33 移動方策(バスなど)の充実 34 自転車ネットワークの検討	41 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議 42 浦和美園～岩槻地域移動実態調査
将来に向けた検討	5 10 アーバンデザインセンターみその整備事業 11 みその都市デザイン協議会 14 埼玉スタジアム駅設置に合わせたまちづくり方策の検討 15 国際スポーツタウン構想の推進	5 16 岩槻まちづくりアクションプランの推進	5 25 施設誘致・整備 27 新駅設置に合わせたまちづくり方策の検討	5 28 施設誘致・整備施設の立地を想定した開発可能性の検討(市街化調整区域)	43 7号地域成長・延伸実現マネジメント会議

⑤-1 浦和美園～岩槻地域の現状と課題について（浦和美園駅周辺地区）

現 状

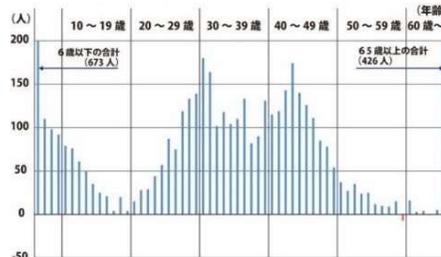
1 新市街地の形成

- ・みそのウイングシティ内の定住人口は、9,600人（平成30年1月時点）を突破し、10歳未満および30歳～40歳代を中心に急増している。
- ・本市平均の年齢層より若い人々の定住が始まっていることにより新たなニーズが発生している。美園小学校では仮設教室が増設されるなど生徒が増加しており、現在、新設の小、中学校について平成31年度開校を予定している。また、認可保育所も急増している。
- ・環境未来都市の実現に向けて様々なプロジェクトを展開しており、平成28年度には浦和美園駅西口に第1期となる33戸のスマートホーム・コミュニティ先導的モデル街区が整備された。平成30年度に約40戸、平成31年度には約50戸が整備される予定である。

みそのウイングシティ内の定住人口の推移



みそのウイングシティ内の年齢別人口増減（H23～H29）



（出典）住民基本台帳を基に作成（各年1月現在）

2 土地利用の推進

- ・浦和美園駅東口には支所、図書館等が入る複合施設が完成し、平成29年11月には金融機関が開設された。平成30年にはビジネスホテルが完成予定など、駅前の土地利用が動き出しているものの、駅前としてのまちの成熟度としては高くない。
- ・埼玉県による大学附属病院及び大学院等の誘致が展開されており今後のまちづくりへの影響は大きい。

3 スポーツ・イベント開催

埼玉スタジアム2002では、Jリーグ等の試合が年間約20試合開催され、合計約80万人が訪れている。また、新旧住民等が協働しながら新たなイベントとして「日光御成道美園大門宿まつり」や「浦和美園まつり&花火大会」などを開催。浦和美園駅周辺地区では年間約30種類のイベント等が開催され、約38万人が来訪している。



浦和美園まつり

4 地域連携・協働

・平成27年10月に開設されたまちづくり情報発信・活動連携拠点「アーバンデザインセンターみその（以下、「UDCM」という。）」を拠点に、行政・企業・大学など「公民学」の各主体が様々な場面で繋がり、連携・協働し、生活利便サービスや地域プロモーションなど、主としてまちづくりに係るソフト分野の企画立案・実証・事業化に取り組んでいる。また、平成29年4月にみその都市デザイン協議会が美園地区の目指すべき都市環境形成の方向性や将来像を示した「みその都市デザイン方針」を策定した。

5 公共交通等ネットワーク

- ・まちづくりの進捗により、岩槻駅からの路線バスが美園東地区を経由し浦和美園駅に至るルートに変更され運行している。また、西口駅前広場開設に伴い浦和駅、大宮駅方面のバス路線が再編成された。
- ・浦和美園駅からさいたま新都心駅間で次世代バスの運行実証を平成30年度より行う予定である。
- ・浦和美園駅東口の駐輪場にて電動アシスト付き自転車の貸出しを行っており、地域交通ネットワークの補完を図っている。

課 題

将来を見据えた持続可能なまちづくり

本市平均の年齢層より若い人々の定住が急速に進んでいることによる住民ニーズへの対応が求められている。一方、同年齢層の急速な増加は将来同期にまちの高齢化（老朽化）が生じる可能性があり、長期的な視点に立った持続可能なまちづくりの検討が求められる。

まちづくり効果の波及

先進的な新たなまちづくりの効果を市全体に対して波及することが求められている。

地域・世代・住民間をつなぐ地域コミュニティの形成

定住人口の急速な増加に対応した地域・世代・住民間をつなぐ地域コミュニティの形成を図る必要がある。

まちの賑わいの創出に向けた土地利用

都市基盤整備の進捗に伴い、土地利用が行われているが、特にまちの玄関となる駅前周辺の成熟により、賑わいを創出する必要がある。

公共交通ネットワークの形成

土地利用の進展に伴い、今後、地域交通ネットワーク強化のニーズの高まりが想定される。現在の路線バスのサービス向上や多様な回遊性手段の提供等が必要である。

埼玉スタジアム2002をはじめとした地域資源を活かしたまちの創出

2020東京五輪の開催を控え来訪者の安全性、アクセス性、快適性などの向上を図っていく必要がある。また、地域資源を活かしたイベントなどの魅力発信により地域内外のさらなる交流を図る必要がある。

⑤-2浦和美園～岩槻地域の現状と課題について（岩槻駅周辺地区）

現 状

1 歴史・文化を有する市街地の形成

- ・岩槻駅舎及び岩槻駅東西自由通路の完成、観光案内所の開設、岩槻駅西口駅前広場や岩槻駅西口駅前通り線の開通により路線バスの発着変更など、まちの骨格部が大きく変わり日常の人の流れも変化してきている。
- ・岩槻駅西口土地区画整理事業の進捗により、緩やかではあるが岩槻駅西口駅前広場等の整備以外でも街並みの形成の変化が見え始めている。

2 人口減少及び少子高齢化

- ・岩槻駅周辺(2km圏内)の人口は平成22年より減少傾向が続いている。また、高齢化率も増加傾向にある。
- ・平成19年から平成29年の年代別人口数の推移では若い年齢層が減少し、高齢層が増加しており、少子高齢化が進行している。



3 イベント開催

- ・城下町岩槻をテーマにした城下町岩槻鷹狩り行列の開催や人形をテーマにしたジャンボひな段の人形のまち岩槻まつり、人形供養祭、重陽の節句、人形のまち岩槻まちど雛めぐり等が開催されている。また、新規イベントとして地元団体による愛宕神社の石段を利用した大雛段飾りや人日の節句なども開催されている。
- ・東岩槻駅前でも地域コミュニティによる「東岩槻まつり」などが行われている。



岩槻愛宕神社大雛段飾り

4 地域資源の活用

- ・市街地には岩槻城址公園、時の鐘、岩槻藩遷喬館や国登録有形文化財である岩槻郷土資料館、長谷川家見世蔵、東玉大正館などが点在している。
- ・旧岩槻区役所敷地でさいたま市岩槻人形博物館や(仮称)にぎわい交流館いつきの整備が進行し平成31年度末の開館を目指している。
- ・人形製造業の事業所が減少する中、岩槻人形協同組合は都内の私立大学との連携のもと新商品の開発、販売等を行っている。



岩槻藩遷喬館

5 地域連携・協働

- ・地域活動としてまちづくりに係るNPO団体をはじめ各種団体が多く、その活動の幅も広がっており、地域おこしのため、年間を通した新たなイベントの開催、国登録有形文化財などの歴史的資源の活用や、大学等との連携による取組が行われている。

6 公共交通ネットワーク

- ・岩槻駅西口駅前広場開設に伴いバス路線の再編成がされた。現在路線バスは、蓮田、浦和美園・東川口、越谷、大宮方面に運行されているが運行本数の減少した路線もある。コミュニティバスや乗合タクシーも運行されているが、地域公共交通として十分とは言えない状況であり、交通不便地区も多い。

課 題

将来を見据えた持続可能なまちづくり

岩槻駅舎及び岩槻駅東西自由通路の完成や岩槻駅西口土地区画整理事業の進捗が街並みの形成を促す契機となり新旧の街並みが調和しつつある。副都心としての都市機能の強化に向けたまちづくりが求められている。

古い街並みや、地域資源として活用されている施設は回遊性を高めるための一助となっているが、今後どのように持続させていくかという課題もある。

東岩槻駅が昭和44年に設置され、東岩槻駅周辺は昭和46年に土地区画整理事業が完了しており、当時から住み続けている住民が高齢となっていることから地域が連携・協働したまちづくりが求められている。

地域コミュニティの形成

地域コミュニティ形成のため、経済界、商店会、自治会組織に加え各種団体の活動も盛んであり、これらの人々の連携・協働を図るための情報共有化や支援などを行うことが求められている。

定住者、来訪者に向けた新たな取組

まちへの愛着の醸成やアクティブなシニアの育成、また「住んでみたい」と感じさせる取組が求められている。一方、来訪者に対してのおもてなしの醸成が求められている。

歴史・文化的資源を活かしたまちづくり

歴史・文化的資源を最大限活かし、情報発信力を含めた観光機能の強化により、国内外から多くの来訪者で賑わうまちづくりを行う必要がある。

新たな拠点であるさいたま市岩槻人形博物館等の活用と連動し、既存地域資源への回遊性の向上などで地区全体の「魅力」、「質」の向上につなげていく取組が必要である。

公共交通ネットワークの検討

高齢者や子育て世代などの交通弱者に対する交通手段の確保が求められている。路線バス等のサービス向上や、イベント開催時等に際し回遊性を向上させるための多様な移動手段の提供も必要である。

「城下町や人形のまち岩槻」としての魅力発信

交流人口及び定住人口の増加へとつなげていくために、岩槻の歴史や文化等の魅力発信を多様な手法で行っていく必要がある。

市民団体等による新たな文化・イベントの創出

既存イベントや新たなイベントの取組に対して地域間及び、行政と地域コミュニティの連携強化が必要であり、その効果としての「イベントの質の向上」が来訪者の満足度を向上させ、ひいては交流人口増加へとつなげることが必要である。

⑤-3浦和美園～岩槻地域の現状と課題について（中間駅周辺地区）

現 状

1 地域資源の活用

- ・中間駅周辺地区にある篠岡八幡大神社（笹久保）では氏子の子供による「古式土俵入り」（国指定重要無形民俗文化財）が奉納されている。
- ・東部地域の中間部は緑地や農地が広がる市街化調整区域であり、東北自動車道で分断されているもの見沼たんぼを含め自然環境豊かな地域となっている。また、台地部には屋敷林や、斜面林、歴史的神社仏閣等が点在し、地域文化を発信している。
- ・見沼たんぼについては、首都近郊に残された数少ない大規模緑地空間として保全し、見沼たんぼの自然・歴史・文化を市民のかけがえのない環境資産として後世に伝える取組が行われている。
- ・地域団体等により豊かな自然を活用し、農業体験や農村生活体験を通して、農業や自然、環境について総合的に学べる取組が行われている。



国指定 重要無形民俗文化財
岩槻の古式土俵入り
（出典：さいたま市HP）



国指定史跡 真福寺貝塚
（出典：さいたま市HP）



見沼たんぼ



桜回廊

2 大学と連携したイベントや講座等の開催

- ・中間駅周辺地区に立地する目白大学岩槻キャンパスは、保健医療学部や看護学部があり、約1,300名の教職員及び学生が通っており、目白大学耳科学研究所クリニックも併設している。平成28年度には本市と包括連携協定を締結、また、さいたま商工会議所とも包括連携協定を締結し、医療機器開発コンテスト（SMAP事業※1）を埼玉県内初の事業として実施している。
- ・同キャンパス内で学園祭と連携し、「いわつきマルシェin目白大学」の開催や地元NPO団体と学生の交流が「SPIS事業※2」を通して「岩槻やまぶきまつり」への参加など地域交流が行われている。



目白大学岩槻キャンパス



目白大学耳科学研究所クリニック

※1 SMAP事業：目白大学と市内のモノづくり企業等が連携しながら看護支援を中心とした医療機器を開発するプロジェクト。（Saitama Mejiro Active Project）

※2 SPIS事業：学生の夢の実現のチャレンジを目的に学生の生活費の一部を大学がサポートし、地域との連携を推進する事業。（Students Project Incentive Scholarship）

課 題

地域資源の活用強化

地域協働を推進し、地域資源を十分に活用することにより、付加価値の創造が求められている。

大学との連携強化

本市との包括連携協定を基にさらなる連携強化が求められている。

新駅と将来のまちづくりの検討

今後の社会情勢などを注視し、その時の状況を考慮して新駅の設置と、段階的なまちづくりについて調査、検討することが求められている。

地域資源の魅力発信

地域資源を活用したイベント等についてのPRを積極的に行い、地域の魅力を発信していく必要がある。

地域間の交流人口増に向けた取組

更なる交流人口の増加に向け、浦和美園駅周辺地区と岩槻駅周辺地区、そして2つの地区の中間に位置する中間駅周辺地区の3つの地区が連携し、交流人口増に向けた相乗効果を生み出すことが必要である。

東部地域全体の成長・発展に向けたまちづくりの推進

東部地域に属する3つの異なる個性を持ったまちづくりに取り組み、各地区がそれぞれに違う魅力を高め合うことで、東部地域全体の成長・発展を図ることが必要である。

⑥-1 浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの見直しについて

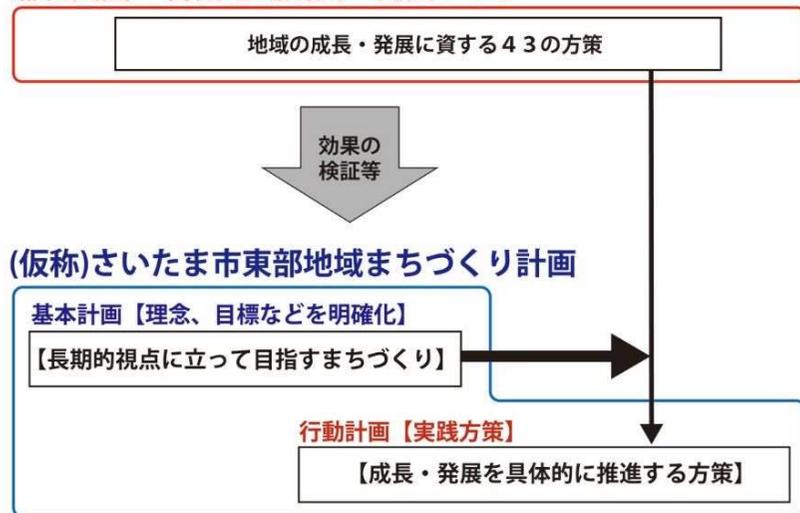
1. 成長・発展プランの改定のイメージ

成長・発展プランは平成23年度の「地下鉄7号線延伸検討委員会」の「延伸実現に資する方策」や議会の提言等を踏まえ策定した経緯があることから、方策の推進(実行)を強く打ち出したプランとなっており、まちづくりの方向性等は示しているものの、理念や方針が明確に示されていない等の課題が見えてきた。

成長・発展プランの第Ⅱ期の最終年度である平成29年度を迎え、平成28年度までの効果の検証や本市の計画等との関連などを考慮し、東部地域(浦和美園～岩槻地域)の持続可能なまちづくりに向けた理念や目標等を明確化した基本計画と、成長・発展を具体的に推進するための方策である行動計画に区分し、わかりやすく示すこととした。

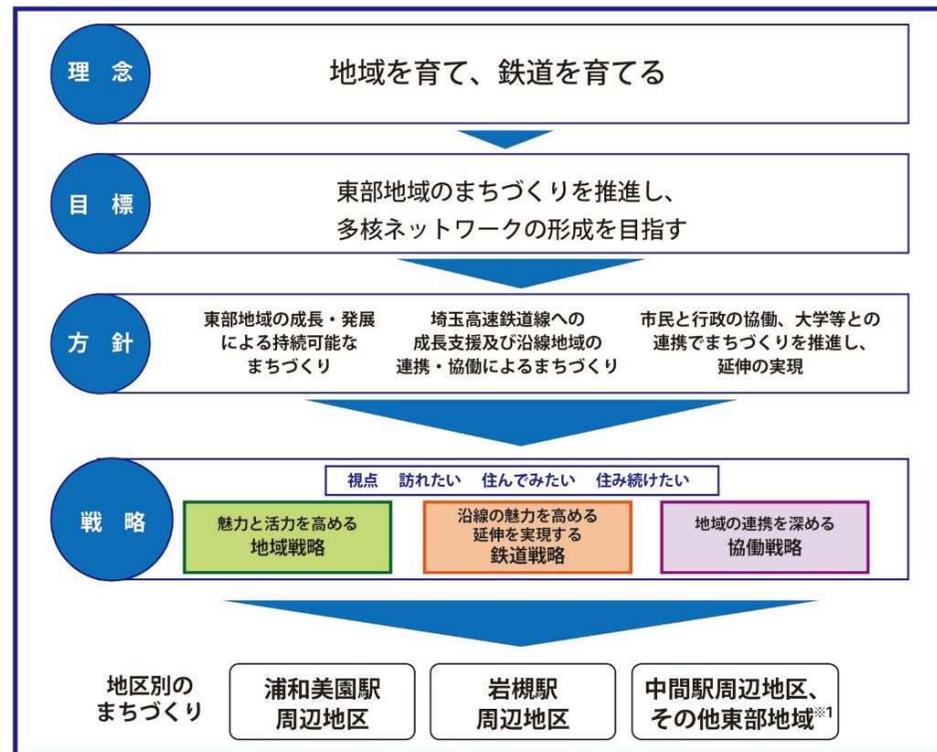
また、これまでの成長・発展プランから「(仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画」とし、長期的な視点に立ってネットワーク形成を目指す東部地域のまちづくりについての計画として始動させる。

浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン



2. 基本計画、行動計画の概要

基本計画



行動計画

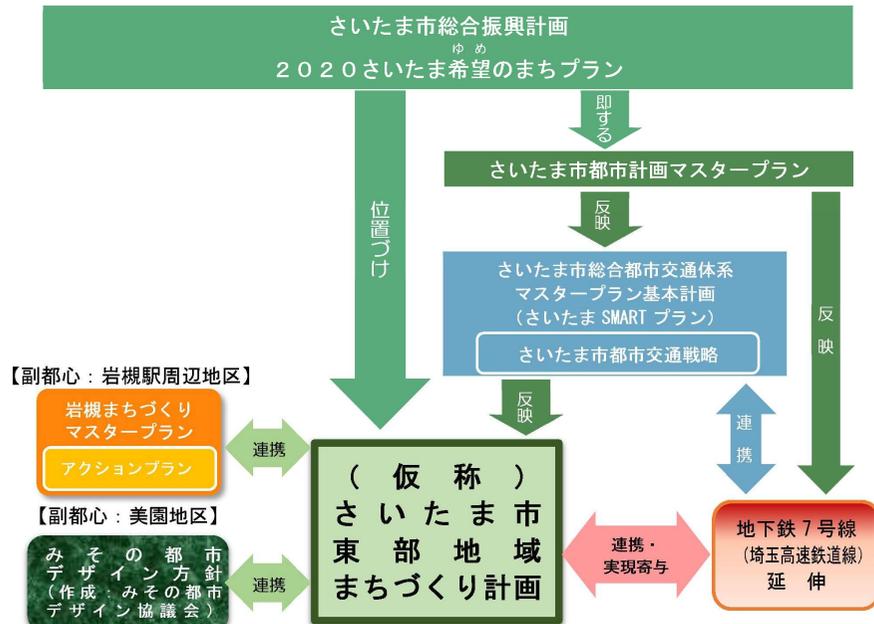


※1 その他東部地域：東部地域の浦和美園駅周辺地区、岩槻駅周辺地区、中間駅周辺地区以外のエリア及び、3地区のうちいずれか複数にまたがるエリアのことをいう。

⑥-2浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの見直しについて

3. 計画の位置づけ

(仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画(以下「本計画」という。)は、2020さいたま希望のまちプラン(総合振興計画後期基本計画)により位置づけられ、みその都市デザイン方針や岩槻まちづくりマスタープランと連携して推進する計画である。また、都市鉄道等利便増進法適用による地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)の延伸の実現にもつながる。



4. 計画の対象範囲

本計画の対象となる東部地域は、下図のとおり副都心である美園地区と岩槻駅周辺地区の周辺とそれぞれを結ぶ地域である。



5. 計画の目的

本計画は地域の魅力を高め、定住・交流人口を増加させ、同地域に計画されている地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)の延伸事業の評価を向上させ、コンパクトシティ+ネットワークを実現し、持続可能なまちづくりを目指すための計画である。

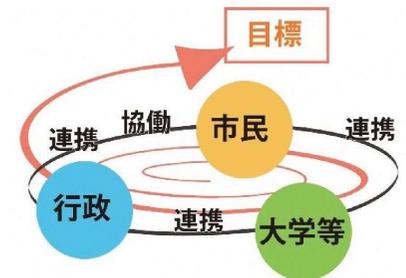
また、本計画を進めたことによるまちづくりの効果を市全体に波及させることにより相乗効果が生まれ、均衡ある成長により市全体の価値を高め「東日本の中核都市」づくりを推進する。

6. 計画の進め方

本計画を進める上で、まず市民(市民組織、企業、NPO等の各種団体なども含む)と行政(自治体)が連携・協働し、まちづくりを推進することが、地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)へも好影響をもたらし、延伸事業への評価を向上させ、「鉄道事業者による延伸へとつながる」ことの共通認識を図る。

目標の達成に向けては、地域社会を構成する市民をはじめとしたすべての関係者と行政の相互理解のもとそれぞれの役割と責任を担い目標実現に向けて参画・連携・協働により推進する。

また、国・県・沿線自治体や鉄道事業者と連携し推進する。



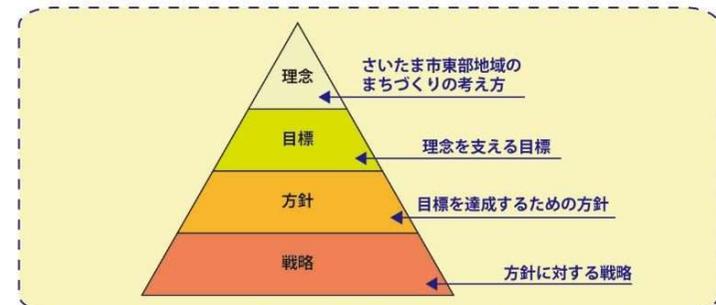
7. 計画の構成

本計画は、長期的視点に立って東部地域の持続可能なまちづくりを目指し、まちづくりの理念や目標、戦略等を示した『基本計画』と、基本計画において示された戦略等に基づき、東部地域の成長・発展に向けた実践方策をまとめた『行動計画』によって構成されている。

基本計画においては、東部地域におけるまちづくりの考え方として理念を示し、その理念に基づきまちづくりを推進し、本市として達成すべき目標を定めている。

さらに、目標を達成するためのまちづくりの方針を設定し、その方針に対する戦略を定め東部地域の各地区においてまちづくりの実践方策を展開する計画としている。

基本計画



行動計画



⑥-3浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの見直しについて

8. 東部地域の目指すまちの姿

理念

地域を育て、鉄道を育てる

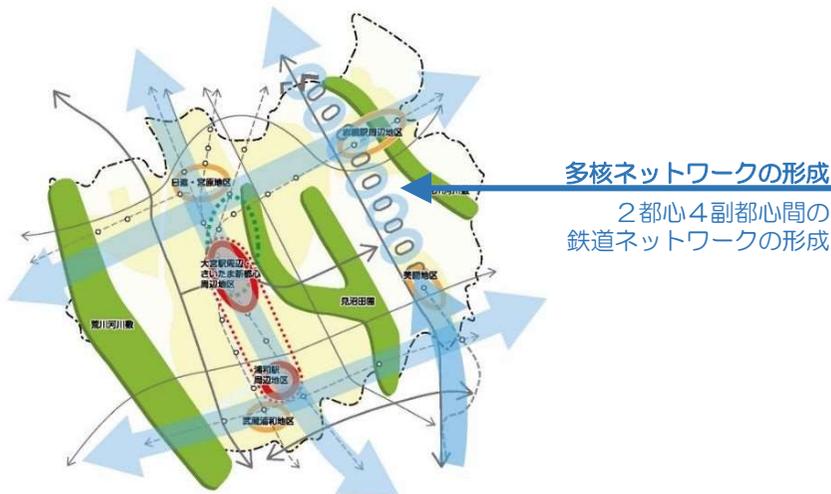
～ひと・まち・鉄道がつながるまちづくり～

鉄道の延伸はひとが暮らしやすいまちづくりのための一つの手段であり、市民、企業、行政等が連携・協働して東部地域のまちづくりを推進し鉄道ネットワークの形成を図る。

目標

東部地域のまちづくりを推進し、 多核ネットワークの形成を目指す

東部地域のまちづくりを推進し、多核(2都心、4副都心)ネットワークの形成のため地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)の延伸実現を目指し、市全体の均衡ある発展により「東日本の中枢都市」づくりを推進する。



方針

1. 東部地域の成長・発展による持続可能なまちづくり

浦和美園駅周辺は新たなまちを創造し成長・発展を続けており、岩槻駅周辺は古くから歴史・文化を守り育んできたまちであり、さらに魅力と活力を高めることが望まれる。この異なる個性あるまちの間に位置する中間駅周辺においては地域資源を活用したまちの創造を進める。それぞれのまちの成熟度を考慮し、持続可能なまちづくりを進める。

2. 地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)沿線への成長支援及び沿線地域の連携・協働によるまちづくり

関係自治体が連携し、鉄道事業者への成長支援を行う。また、鉄道事業者、沿線地域の人々、関係自治体が連携・協働したまちづくりを進め、沿線地域の魅力向上を図る。

3. 市民と行政の協働、大学等の連携でまちづくりを推進し、延伸の実現

すべての関係者が協働し、地域おこしをはじめとしたまちづくりを推進し、連動して鉄道の延伸を実現させる。大学や専門機関などの専門家からの知見を活かした助言、連携、協力等によりまちづくりを進める。

戦略

東部地域へ「訪れたい」、「住んでみたい」、「住み続けたい」という視点を基にまちづくり方針に対する戦略を構築する。

訪れたい「誰もが地域の魅力に感動を覚えるまち」
住んでみたい「誰もが地域の文化や美しさに共感できるまち」
住み続けたい「誰もが安心・安全でふれあいのある地域社会の中で郷土愛と誇りが持てるまち」

魅力と活力を高める
地域戦略

沿線の魅力をもつ
延伸を実現する
鉄道戦略

地域の連携を深める
協働戦略

⑥-4 浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの見直しについて

9. 行動計画について

行動計画の目的

行動計画は、まちづくりの理念や目標、方針等を掲げた『基本計画』において示された戦略に基づき、東部地域の成長・発展に向けた実践方策をまとめたものである。

行動計画の実践方策を推進することで目標に掲げた「東部地域のまちづくりを推進し、多核ネットワークの形成」を達成し、東部地域の持続可能なまちづくりを目指す。

基本計画

地区	まちづくりの方向性	戦略
浦和美園駅周辺地区	スポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマに新しいまちの創造	地域戦略 スポーツ、健康、環境・エネルギーをはじめとした、先進的なまちづくりの取組や効果を市全体へ波及させることにより、持続可能なまちづくりにつなげるとともにまちの魅力と活力を高める。
		鉄道戦略 埼玉高速鉄道と地域の連携を深め、イベントの開催等により既設線沿線の魅力を高めるとともに、地下鉄7号線の延伸実現に向けた検討を行う。
		協働戦略 東部地域の成長・発展に向けて、市民、企業、行政、大学等が連携したまちづくりを推進する。
岩槻駅周辺地区	城下町や人形のまちとしての歴史・文化が息づく、ふれあい・おもてなしのまちの創出	地域戦略 城下町や人形などの歴史・文化的資源等を最大限活用するとともに、都市機能の向上を図り、まちの魅力と活力を高める。
		鉄道戦略 イベントの開催などにより、地域の魅力を高め浦和美園～岩槻地域の交流を促進させるとともに、地下鉄7号線の延伸実現に向けた検討を行う。
		協働戦略 東部地域の成長・発展に向けて、市民、企業、行政、大学等が連携したまちづくりを推進する。
中間駅周辺地区・その他東部地域	自然と共生し、地域資源を活用したまちの創造	地域戦略 緑豊かな田園風景や自然環境等の地域資源を活用した交流により地域の魅力と活力を高める。
		鉄道戦略 イベントの開催などにより、地域の魅力を高め浦和美園～岩槻地域の交流を促進させるとともに、今後の社会情勢等を考慮し、新駅設置と段階的なまちづくりを実現するため調査・研究を行う。
		協働戦略 東部地域の成長・発展に向けて、市民、企業、行政、大学等が連携したまちづくりを推進する。

各地区の戦略と実践方策の分類

基本計画において定めた各地区におけるまちづくりの方向性や3つの戦略に基づき、行動計画では、東部地域の成長・発展に向けた実践方策を7つのカテゴリーに分類し、具体的にまちづくりを推進する。

行動計画

関連する戦略	実践方策	
地域	地域の情報発信	定住促進や交流人口増を図るためウェブサイトやメディア等を通して地域の魅力を発信する。
地域	まちの基盤整備	土地区画整理事業による都市基盤整備や、生活利便施設等の立地により、魅力のあるまちを創出する。
地域	地域内外の移動確保	公共交通の充実や、公共交通を補完する交通手段を導入することにより、地域内外の回遊性を高める。
鉄道	地下鉄7号線延伸実現に向けた検討	延伸実現に向けた調査・検討を行う。
協働	地域が連携・協働したまちづくり	地域住民や企業等と連携・協働したまちづくりの実施や、関係機関等と連携を図る。
地域 鉄道	持続可能なまちづくりに向けた検討	地下鉄7号線延伸線沿線エリアにおけるまちづくりや、企業誘致に向けた検討等を行う。
地域 鉄道 協働	地域資源を活用した交流	埼玉スタジアム2002や、自然環境、歴史・文化など、東部地域の様々な資源を活用したイベント等を開催し、交流人口の増加を図る。

⑥-5浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの見直しについて

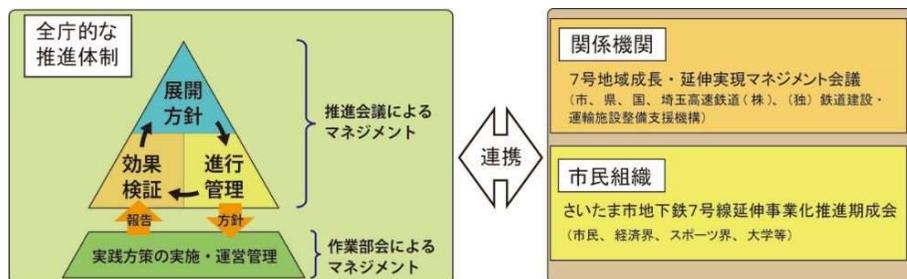
10. マネジメント

(1) 進行管理と推進体制

庁内組織である「(仮称)東部地域まちづくり推進会議」(以下、「推進会議」という。)は、「各
方策展開の方針決定」及び、「各方策の進行管理」、「施策の効果検証」の役割を担う。

また、作業部会は実践方策に関する具体的な実施、進行管理及び課題の抽出・改善等を行
うとともに、推進会議への進捗状況、課題の報告及び対応策の提案等を行う。

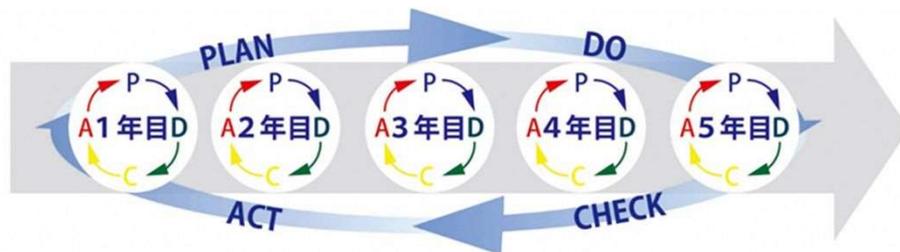
全庁的に連携して方策を推進するとともに、関係機関や市民組織とも連携して推進する。



庁内推進体制と関係機関等との関係図

(2) 行動計画の実行と進行管理

行動計画に位置づけた実践方策について、PDCAサイクルによる実施状況の点検、効
果検証等を毎年度実施し、5年後を目安に行動計画の総点検、検証、改善を行う。



PDCAサイクルイメージ図

11. 計画の見直し

【基本計画】

基本計画は、長期的な視点に立ち、東部地域の持続可能なまちづくりによ
って地域の成長・発展を図るものであり、計画の見直しについては、社会、
経済状況の変化、国や県の関連政策の動向等の社会情勢を総合的に判
断し、具体的な見直しの時期を決定するものとする。

【行動計画】

行動計画は、基本計画に基づき具体的な方策を展開する実践方策であ
り、計画の実効性を高めているものである。そのため、計画の見直しにつ
いては5年後を目安とする。

ただし、見直し時期は目安であり、毎年実施する効果検証の結果や状況
の変化などを踏まえ、時期を決定する。